



城内 実

プロフィール

きうち・みのる——衆議院議員（無所属）。1965年、神奈川県生まれ（本籍は静岡県浜松市）。幼少時代は西ドイツに滞在し、89年、東京大学教養学部卒業後、外務省に入省。在ドイツ大使館勤務や天皇陛下、首相のドイツ語通訳官等を経て2002年に退官。翌03年に無所属で総選挙に出馬、当選。のちに自民党より追加公認を受けたが、06年の「郵政選挙」で落選、片山さつき氏に惜敗。今年の総選挙で再び当選を果たす。



「日本が借金大国」と騒ぐのは財務省の省益を利するだけ

フルフォード（以下F） 郵政

選挙から4年越しの返り咲き当選、おめでとうございます。今回の選挙で民主党連立政権が誕生しましたが、どのようにご覧になっ

ていますか？

城内実衆議院議員（以下城内）
ありがとうございます。自民党を追いつかれて無所属でやっていますが、民主党に対しては期待して



いる部分がある半面、「ちょっと危ないな」と思っていますね。

F どこが危ないんですか？

城内 私は10年ほどドイツにいましたが、今の政権運営を見てみると、ファシズムに走る危険性を感じてしまいます。と言うのも、鳩山（由紀夫）首相は「政治主導」といつも言っていますが、実際は「政党主導」。ソ連共産党や中国共産党、そしてナチスのような形態に近いのです。

F 具体的には？

城内 たとえば、ハツ場ダム。無駄な公共事業には私も反対です。しかし、曲がりなりにも民主的なプロセスで決定したものを、別の政党が与党になったからと言って、簡単にひっくり返してしまっているのか。これでは政権交代が「革命」になってしまいます。

F 官僚出身である城内さんから見て、民主党の役人の使い方、をどう思いますか？

城内 あまりに役人をバッシングしすぎです。天下りも問題だけど、国のため、地域のために真剣に働いている人もたくさんいるん

このままの民主党政権では 「小泉時代」の二の舞いになる!

です。しかも、官僚はずっと専門的なことをしていますから、知識もノウハウもある。やはり、役割分担すべきであって、うまく使いこなさないといいけません。民主党が自らのマニフェスト（政権公約）に固執するあまり、官僚たちが「分かりました」と、民主党の言ったことを無茶なものでも実現する、いわゆる「遵法闘争」を展開するのではないか、それを一番心配していますね。

F 要するに、民主党が言ったことで民主党の首が締まるように、官僚が仕向けるというわけですね。その一方で、日本は巨額の財政赤字を抱えています。やはり、「バラ撒き政策」はもう無理なんじゃないですか？

城内 これまで無駄な公共工事が多かったことも事実です。人の住んでいないところに道路をつくるようなことは見直さないといいけません。ただ、私はそれでも公共事業は必要だと思っています。

F どうしてですか？

城内 やはり、まだインフラ整備が十分じゃない地域がたくさん

あるからです。だから、環境を破壊しないかたちの公共事業などは必要でしょう。たとえば、電線電柱。欧米の都市部ではほとんど地中化されていますが、日本は東京ですら完全にはそうなっていない。

そもそも、建設業は裾野の広い産業なんです。ひとつの工事にいろいろな業種がぶら下がっている。その人たちに一方的に倒産や失業を迫るとするのは、負のスパイラルを助長するだけです。

F では、財政赤字はどうする

「自民党公認」のままだったら ゾッとすることになっていた

F ところで、城内さんの古巣である自民党では、谷垣禎一さんが新総裁になりましたが、「野党・自民党」はどうですか？

城内 まずは、反省が足りませんね。そしてなぜ、あのような惨敗を喫したのか、もう一度よく総括しなければなりません。

F 自民党が大敗した理由は何でしょうか？

んですか？

城内 日本は「借金大国」だとよく言われますが、一方で「世界一の債権国」なんです。財政問題というのは、財務省が消費税を上げるための口実の面が強い。財務省にしてみれば、税収が増えれば権限が増しますからね。つまり、他の省庁に対して「ほらほら、欲しいか」とできるわけです。

ともかく、民主党政権が「小泉政治」の再来にならないことを祈るばかりです。



城内 今まで自民党を票と資金で支えてきた方々や団体をことごとく裏切ってきたからです。小泉・竹中構造改革路線、つまり新自由主義経済路線を追求して、これまでの支援者たちを切り捨てた。これが最大の敗因でしょう。

F では、2001年からの5年間は、小泉さんに自民党が乗っ取られた時代だった？

城内 そう。小泉純一郎という

「異端児」に乗っ取られたということ。事実、小泉さんは「自民党をぶっ壊す」と言って総理になったわけだから、その公約を守っただけでも取れますが……。

翻って、野党・自民党が再生できるとすれば、素直にそのことを総括しないといけない。逆に言えば、今の自民党議員が、あの路線は正しかったと思うのなら、堂々とそう主張すればいいわけです。まあ、「クールビズだけは良かった」と言う人もいますが、私自身はそれにも反対でした。(笑)

F 城内さんと言えば、4年前の安倍晋三元首相との映像が思い起こされるのですが、安倍さんについては、どのような感情を持っていますか？

城内 安倍元総理とは、伝統文化を大事にするとか、日本のふるさとを大切にするといった思想信条は近いのですが、やはり新自由主義経済をどう評価するかという点では違っていたのかな、と感じていますね。

F あのととき、安倍さんに付き

ていなくて良かった？(笑)

城内 そういう意味では、安倍先生にご迷惑を掛けたことは本当に申し訳ないと思っています。しかし、あのととき、国民の幸せや国益に対する自分の信念を曲げて、郵政民営化に賛成していたら、私の政治生命は終わっていたんじゃないでしょうか。

F 確かに……。

城内 民営化に賛成票を投じて、今回の総選挙でも「自民党公認候補」として出馬していたことを考えると、正直、ゾツとしますね(苦笑)。そう考えると、非常に運命的なものがあつたのかも知

アメリカの手先が主導した「郵政民営化」は絶対に許さない



F さつきからおっしゃっているように、城内さんの原点はやはり、「郵政民営化反対」だと思うのですが、民主党政権が行っている「郵政民営化見直し」についてはどうお考えですか？

城内 私は今、「国益と国民の

れない。小泉チルドレンが大量に発生したなかでも、私自身はぶれずにやってきた。その自負だけは持っています。

F 結局、政治家は「ぶれない」ということですね。

城内 「ぶれる国会議員」なんて必要ありませんよ。繰り返しになりますが、自民党で小泉・竹中路線を信奉していた人たちは、米国の一部の人たちと仲良くしながら、大企業だけに目を向けてマネーゲームをやる——そういった政党をつくればいいんですよ。決してメジャーになることはいらないでしょうが……。(苦笑)

生活を守る会」という無所属の平沼赳夫先生のグループ3人で活動をしています。この点については、民主党連立政権に賛成です。フルフォードさんもご存じのように、郵政民営化というのは、すべての日本国民の幸せのために使

ブリーズ、虫めがね!



うべき郵貯や簡保といった貴重な金融資産を、海外の金融資本家とその手先にタダ同然で払い下げることなんですね。人材派遣会社大手の会長になったような人物たちが「官から民へ」と言いながら行った売国行為。それが郵政民営化の正体です。

F やっぱ、彼が首謀者？

城内 正直、あの人が首謀者だと断言できる確たる証拠はありません。ただ、当時は総務省内に「郵政民営化準備室」というものが出来て、まったくブラックボックスの中で決定されてしまったのです。そもそも、どのようなプロセスで4分社化されたのかすら、誰も分からないのですから……。

F 郵政民営化だけ見ても、日本は米国の属国だということが分かりますが、この立場から日本は脱却することは可能でしょうか？

城内 米国は、世界の異端児です。歴史的に見ても、国土が広すぎて、あまりに多様な民族を抱えているため、それを無理やり統一しなくちゃいけない。だから、日本やその他の国々とはまるっきり違うんです。しかも、ブッシュ大統領時代の米国は、マネーやパワーを信仰する一部の人たちによってコントロールされていた。その点では、中国とはイデオロギーこそ違っているけど、非常に似通った国同士なのです。

F では、日本はそんな国とは付き合わないほうがいい？

城内 いや、日本は米国と対決すべきではないと思います。つまり、一部のおかしな人々とはなく、米国にいる大多数の良識ある人々と協力すべきなんです。そして、日本は米国とは違う役割、たとえば環境技術や非軍事的な面で貢献してこそ、世界中の尊敬を勝ち得ると思いますね。

F 元外交官として、今の日本は尊敬されていると思いますか？

城内 残念なことですが、あまり尊敬はされていませんね。湾岸戦争のときもそうでしたが、日本には重要な国際的事件でも発言力がない。その最たるものが、国連ですよ。多額の負担金を拠出しているのに、安全保障理事会の常任理事国でもない。簡単に言うと、5人に1人の国連職員の給料を日本国民の税金で賄っているにもかかわらず、ですよ。極端な話、日本は国連に入らなくてもいいんじゃないかと思えますね。寄付するだけして、直接はタッチしない。それ以外のところで、国際貢献をしてもいいのかも知れない。

F 米国にお墨付きを与えるだけの国連なら必要ないですね。それ以前に、国連は戦後米国のワイロ外交の舞台だったわけで、もう存在理由さえありませんし。

ところで、城内さんが所属している「国益と国民の生活を守る会」を軸に、小泉時代にパージされた人々を集めた新党をつくる。そして、与党・民主党と対抗して

いくという考えはありますか？

城内 そういったことは、同じグループの平沼先生や小泉龍司先生と検討しています。ただ、政党をつくるんだったら、「新党」ではなく、やはり、「国民政党」を立ち上げないといけません。「政党助成金をもらいましょう」「議席をいただきましょう」というのでは、絶対にうまくいかない。

F 最後になります、今後、城内さんはどんな政治活動を展開していくつもりですか？

城内 会派名のとおり、国益と国民の生活をしっかりと守って

……対談を終えて……

城内実さんは、日本の政治家のひとつの新しいかたちを示していると思う。どういうことかと言うと、ポリシーを持った政治家は生き残り、ファッションシカない政治家は淘汰されるということだ。ただ残念なことに、時流や風に乗った「ファッション型政治家」が、日本にはまだまだ多い。「小泉チルドレン」はほとんど絶滅したが、今度は、その穴を埋めるように「小沢チルドレン」が登場したというのは、そのことを象徴している。自民・民主の対立軸が見えないなか、城内さんには是非、「保守新党」という新機軸をつくってほしい。「新党」という名前がダメなら、「日本党」という党名はどうでしょうか？



撮影・佐々木強

く。そして、米国や中国とは対極にある「和の精神」という価値観で、日本を世界の人々の役に立つ国にしていきたいですね。このままでは民主党も自民党のようになつてしまふでしょうから、そのときこそ、私たちの出番です！

(編集部註 本対談は西川善文・日本郵政社長が辞任する前に収録されました)

ベンجامイン・フルフォード

1961年、カナダ生まれ。外交官の家庭に育つ。元・米経済誌「フォーブス」アジア太平洋支局長。現在はフリージャーナリストとして、日本の権力構造の暗部を精力的に取材している。著書に、「ヤクザ・リセッション」ほかがある。